

## シャント血管の 3D CT 画像の可能性 - 臨床現場への i-Pad 導入

医) 衆和会 長崎腎病院

○小嶋幸徳、大山智之、矢野利幸、高木伴幸、宮崎健一、李 嘉明、船越 哲、  
原田孝司

### 【背景】

CT 性能の向上に伴い、造影 3D 画像は比較的短時間・高精度に撮影可能となったが、用途としては患者説明等に限定されている。一方、現在のところレントゲン画像のドラッグ・ピンチイン/ピンチアウトなどの画面操作ができるタブレット PC は i-Pad のみであり、また i-Pad 全体を使い捨ての調理用ラップで包むことによる感染予防も期待される。

### 【目的】

シャント血管の 3D 画像を、i-Pad にて閲覧する利点を検証する。ポイントとしては ; (1). 透析中の患者への画像説明、(2). カンファレンスの際にスタッフが回欄、(3). ベッドサイドに置きシャント穿刺時のナビゲーター的に使用、などである。

### 【方法】

シャント肢から造影剤を 2.0ml/秒で注入し、GE 社 Bright Speed Elite にて 25・50・75 秒後にシャント血管を撮影し、3D CT 画像を作成する。このデータは富士フィルム社画像サーバー” Synapse” にて電子カルテを介して自動的に i-Pad に転送される。

### 【結果・考案】

患者へのシャント画像説明については大変好評であった。症例カンファレンスの際 i-Pad を回覧し、シャント走行のオリエンテーションを立体的に確認し合うことは有用であった。患者の腕の真横に i-Pad を置いて穿刺ナビゲーター的に使う用途については、患者・スタッフともに安心感もあり有用と思われたが、患者ごとに調理用ラップで包む操作が難点であった。